

取り付け手順2

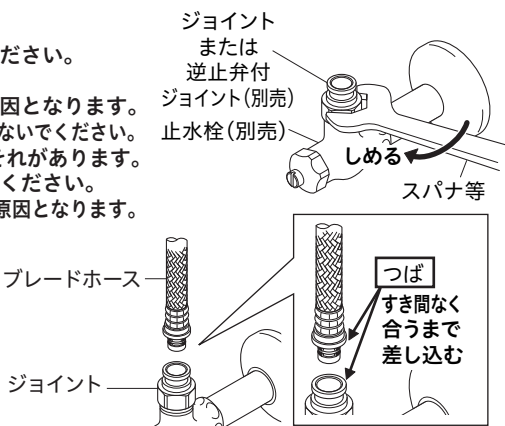
5 止水栓との接続（逆止弁無し仕様共・逆止弁付仕様[Z666 別売]共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

- ・接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
- ・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- ・止水栓がしっかり固定されている事を確認してください。固定されていないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホースのつばとジョイントのつばが
すき間なく合うまで差し込んでください。

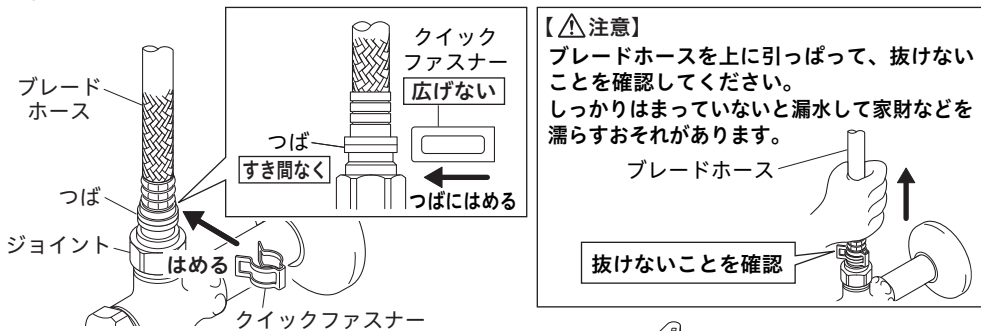


【△注意】

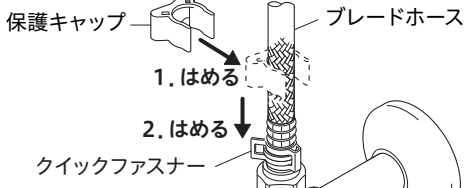
- ・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを漏らすおそれがあります。
- ・上下戻り配管はやめてください。(B図)ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- ・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩擦による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

③ クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



5 ページ

6 シャワーホースの接続

① 〔一般地仕様の場合〕カブラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はカブラー手締め後、約30度増し締めしてください。

〔寒冷地仕様の場合〕水抜き付きカブラーとシャワーホースを接続します。

水抜き付きカブラー手締め後、約30度増し締めしてください。
(締め付けトルクの目安は約100N・cm)

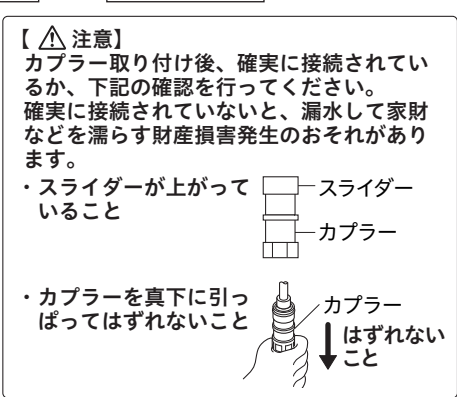
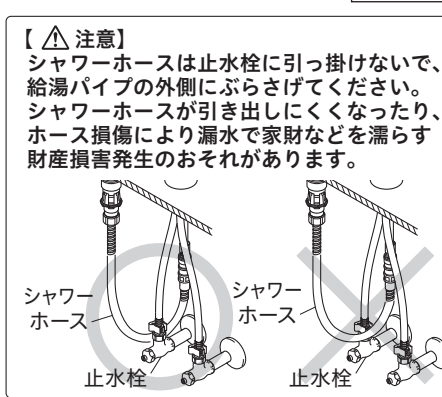
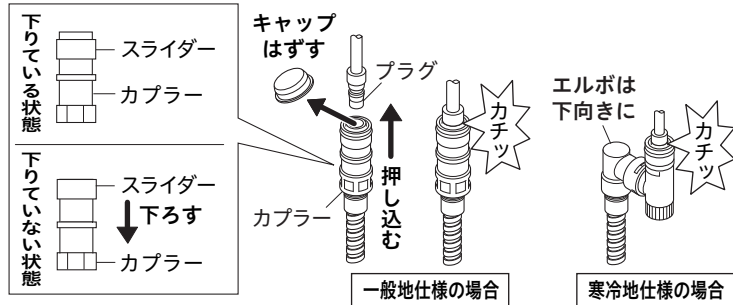
【△注意】カブラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。

- ・漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ※カブラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
- ※シャワーホースの真ちゅう部以外に工具をかけない
- ※シャワーホースはねじらない



② カブラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてからプラグへカチッと音がするまではめ込みます。(寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。)

取り付け後、カブラー（寒冷地仕様は水抜き付カブラー）を引っばってはずれてないことを確認します。



6 ページ

取り付け後の点検と清掃

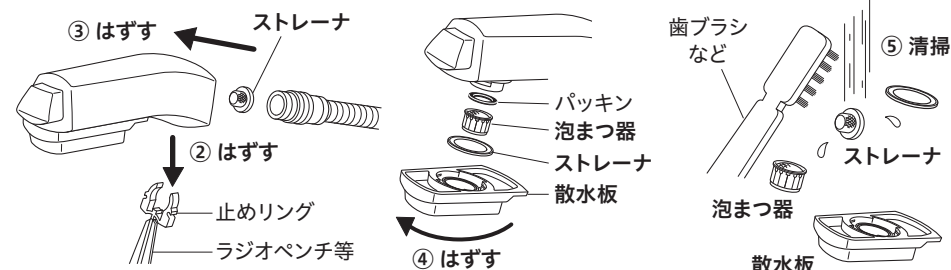
通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ・泡まつ器・散水板清掃のお願い

シャワーヘッドのストレーナ・泡まつ器・散水板にゴミ等がつまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりします。また、給水・給湯圧力条件によっては逆流または、温度調節が容易にできなくなる場合もありますので、施工後必ず清掃してください。

- ① 湯水全開で20～30秒吐水させます。
- ② シャワーヘッドを引き出し、止めリングをラジオペンチ等ではずします。
- ③ シャワーヘッドをはずし、ストレーナを取りはずします。
- ④ 散水板を約45度左に回し止まった位置から下方向へ下げて泡まつ器・ストレーナを取りはずします。
- ⑤ ストレーナ・泡まつ器・散水板をブラシで水洗いします。

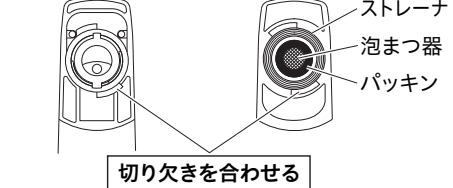


〈清掃後の組み立て〉

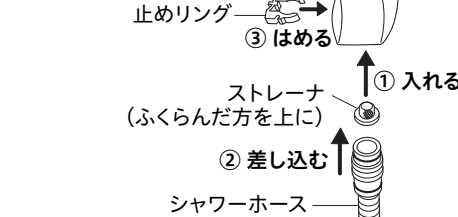
ストレーナ・泡まつ器・パッキンを散水板に戻します。シャワーヘッドと散水板の切り欠きを合わせてねじ込んでください。

シャワーヘッド
(下側から見た図)

散水板
(内側から見た図)

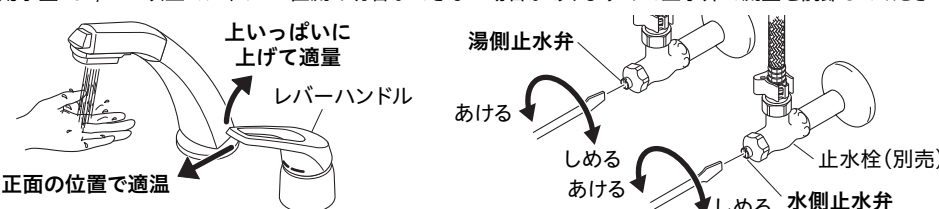


ストレーナをふくらんだ方からシャワーヘッドに入れ、シャワーホースをシャワーヘッドに差し込み止めリングをはめます。



湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。使用水量10L/min以上でシャワー・直流の切替ができない場合がありますので止水弁で流量を調節してください。



7 ページ

故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

カートリッジのメンテナンスをする場合

カートリッジのメンテナンスをする場合は、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。

【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

① 湯水の止水弁(2か所)または元栓をしっかりと締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。

② レバーハンドルをはずし、本体カバーをはずします。

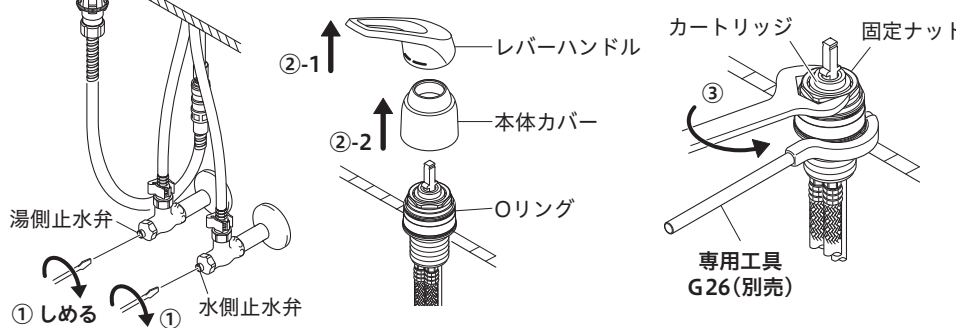
③ 工具を使用して固定ナットをはずして、カートリッジを取り出します。

【△注意】専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。

カートリッジのメンテナンス後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

【△注意】固定ナットの締め付けトルクの目安は約1750N・cmです。

しっかりと締め付けられていないと漏水するおそれがあります。



【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△注意】・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。

8 ページ